

鍼灸学科 夜間部 基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地																			
朝日医療専門学校広島校		平成20年3月11日	光井 富夫	〒733-0812 広島市西区己斐本町一丁目25番15号 (電話) 082-507-1212																			
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地																			
学校法人朝日医療学園		平成3年3月25日	津島 伸章	〒700-0026 岡山県岡山市北区奉環町二丁目7番1号 (電話) 086-214-5522																			
分野	認定課程名	学科名		専門士	高度専門士																		
医療	医療専門課程	鍼灸学科		平成21年 文部科学省 告示第21号	-																		
学科の目的	学校教育法及びあん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律に基づき、はり師およびきゆう師に関する知識・技術を教授し、地域社会において保健・医療・福祉分野で広く活躍できる人材を育成することを目的とする。																						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																
3	夜	2445	1520	280	645	0	0																
単位時間																							
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																	
90		56	0	9	5	14																	
学期制度	■前期 : 4月1日～9月30日 ■後期 : 10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 優:80～100点、良:70～79点、可:60～69点、不可:～59点とし、優・良・可が合格点																		
長期休み	■夏期 : 8月中旬の約2週間 ■冬期 : 12月下旬～1月初旬の約10日間 ■春期 : 3月1日～3月31日までの1か月間			卒業・進級条件	■進級: 定期試験結果をもって判定会議で審議し、学校長が決定する。 ■卒業: 全ての科目の単位を修得し、判定会議で審議し、学校長が決定する。																		
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個人面談、保護者との連携、成績不良者への補習等の実施			課外活動	■課外活動の種類 臨床研究部、柔道部、野球部、推拿ゼミ、美容鍼&フェイシャルトリートメントゼミ、トレーニングサークル等  ■サークル活動: 有																		
■主な就職先・業界等(平成29年度卒業生) 鍼灸院、鍼灸接骨院、エステサロン、整形外科 等  ■就職指導内容 生活設計・マナー・履歴書の書き方等のセミナーの開催、就職希望調査票による個別指導の実施。 ■卒業生数: 20 人 ■就職希望者数: 18 人 ■就職者数: 18 人 ■就職率: 100 % ■卒業者に占める就職者の割合: 90 % ■その他:				主な学修成果 (資格・検定等)		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報)																	
				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>はり師国家試験</td> <td>②</td> <td>19名</td> <td>16名</td> </tr> <tr> <td>きゆう師国家試験</td> <td>②</td> <td>19名</td> <td>18名</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	はり師国家試験	②	19名	16名	きゆう師国家試験	②	19名	18名						
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																				
はり師国家試験	②	19名	16名																				
きゆう師国家試験	②	19名	18名																				
(平成 29 年度卒業生に関する平成30年5月1日 時点の情報)				■中途退学者 4 名 ■中退率 7 %																			
中途退学の現状	■中途退学者 平成29年4月1日時点 在籍者 56名 平成30年3月31日時点 在籍者 52名 ■中途退学の主な理由 ・学業成績不振等  ■中退防止・中退者支援のための取組 ・1年次より補習の実施。小テストによる短期間ごとの成績管理。成績不振者には保護者も含めた面談を行っている。 ・年度内に複数回の面談の実施。																						
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等での減免制度: 有 ・医療資格者サポート制度 : 入学金30万円免除、年間20万円の授業料の減免 ・Wライセンスサポート制度 : 受験料 2万5千円免除、入学金30万円免除、年間40万円の給付																						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等からの第3者評価 : 無																						
当該学科のホームページURL	<a href="https://hrs.asahi.ac.jp/">https://hrs.asahi.ac.jp/</a>																						

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本校の教育課程において、企業・業界団体等との連携により、産業界や職業人が必要とする最新の知識・技術を反映させるため、企業・業界団体等からの意見を十分に活用し、教育課程の編成を定期的に行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程の編成は、本校教員で構成する教務委員会の審議事項となっている。その為、教育課程編成委員会から提案された意見等は教務委員会の審議を経て、カリキュラム等の改善に反映される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
細田 裕太郎	公益社団法人広島県鍼灸師会 細田はりきゅう治療院	平成30年4月1日 ～平成31年3月31日(1年)	①
村田 大樹	株式会社 ポッド	平成30年4月1日 ～平成31年3月31日(1年)	③
光井 富夫	本校 校長	平成30年4月1日 ～平成31年3月31日(1年)	
外山 日登志	本校 教務部次長	平成30年4月1日 ～平成31年3月31日(1年)	
相川 貴裕	本校 教務部課長	平成30年4月1日 ～平成31年3月31日(1年)	
竹内 良	本校 鍼灸学科学科長	平成30年4月1日 ～平成31年3月31日(1年)	
柿原 和之	本校 事務部課長	平成30年4月1日 ～平成31年3月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 9月、3月で実施

(開催日時(実績))

平成30年度・第1回 平成30年9月16日(日) 14:00～15:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

国家試験の合格率は全国平均と比べ高い水準を維持しているが、特に臨床に即した実技を更に充実させるべきとの指摘があり、次年度の授業内容に反映するよう検討していきたい。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

職業に必要な実践的かつ専門的な能力、また職業倫理についても学び、実習・演習等の授業を企業等と連携して行い、最新の知識・技術を修得させる。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

教員資格を有する企業等の職員と講師契約を締結し、実習・演習等の科目担当教員としてシラバスの作成、授業の実施、定期試験の実施、学生の学修成果を評価する。

(3) 具体的な連携の例 ※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
社会鍼灸学	スポーツ選手などに対する身体の使い方や運動指導を目標とした鍼灸臨床を学び、臨床現場での業務に活用できるようにする。	石井鍼灸マッサージ治療院
社会鍼灸学	個人鍼灸院での患者対応のノウハウや鍼灸院運営に関する注意点などを学び、鍼灸院運営において活用できるようにする。	ふれんど鍼灸院
社会鍼灸学	女性の健康管理における鍼灸師としてのサポートやアロマセラピーなどを用いた際の身体的影響を学び、臨床現場での業務に活用できるようにする。	マタニティ&リラクゼーション
社会鍼灸学	地域と協調し、貢献するために鍼灸師として期待されている業務に対する鍼灸師の使命を理解し、地域で生きる鍼灸業務に活用できるようにする。	弓田鍼灸院
社会鍼灸学	介護医療の一環として鍼灸師が活躍するために必要な技能や知識を習得し、臨床現場での業務に活用できるようにする。	やました鍼灸院接骨院
社会鍼灸学	鍼灸院でも求められる運動機能訓練の技能や知識を習得し、臨床現場での業務に活用できるようにする。	健樹鍼灸院、運動スタジオKENJU

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針  
 推薦学科の教員一人ひとりが、学校の教育方針・教育目標を十分に理解し、それぞれの専門性を最大限に発揮するために、さまざまな機会を通じて積極的に研修に努め、絶えず主体的な自己研鑽に励み、必要な知識・技術を修得し、実践的な指導力向上を図る。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等  
 (公社)日本鍼灸師会及び(公社)広島県鍼灸師会の主催する学術講習会や(社)全日本鍼灸学会の主催する学会等に積極的に参加し、最新の施術方法や臨床に即した施術方法を学んだ。

② 指導力の修得・向上のための研修等

(公社)東洋療法学校協会の主催する教員研修会に参加し、最近の学生の気質やその対処、講義スキル、必要な教養について学んだ。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等  
 (公社)日本鍼灸師会及び(公社)広島県鍼灸師会の主催する学術講習会や(社)全日本鍼灸学会の主催する学会等に積極的に参加し、最新の施術方法や臨床に即した施術方法を学び各教員の講義に反映する。

② 指導力の修得・向上のための研修等

(公社)東洋療法学校協会の主催する教員研修会に参加し、最近の学生の気質やその対処、講義スキル、必要な教養について学び、各教員の職務に反映する。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本校における自己点検・自己評価は客観性・公平性を担保するため、学校関係者による評価を行い、教育活動その他の学校運営の改善等に活用する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標・育成人材像
(2) 学校運営	運営方針、組織、情報管理
(3) 教育活動	教務委員会、カリキュラム、授業評価、教員の質の向上
(4) 学修成果	国家試験合格率、就職状況、退学率の低減
(5) 学生支援	学生委員会、就職支援、学費サポートプラン
(6) 教育環境	学習環境、生活環境
(7) 学生の受入れ募集	学校案内、HP
(8) 財務	学校経営、予算・収支計画、会計監査
(9) 法令等の遵守	自己点検・自己評価委員会、情報公開、所管庁指導調査、個人情報管理
(10) 社会貢献・地域貢献	生涯教育、地域貢献、ボランティア
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

- ・学校関係者評価委員会において頂いたご意見等を報告書に纏め、本校のホームページにて公表した。
- ・指摘頂いた改善すべき点は早急に改善を行った。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
宮迫 太一	公益社団法人広島県柔道整復師会	平成30年4月1日 ～平成31年3月31日(1年)	企業等
中村 崇弘	己斐なかむら接骨院	平成30年4月1日 ～平成31年3月31日(1年)	卒業生
盛岡 政行樹	盛岡鍼灸接骨院	平成30年4月1日 ～平成31年3月31日(1年)	保護者
竹内 健治	元岡山県立津山東高等学校	平成30年4月1日 ～平成31年3月31日(1年)	校長経験者
光井 富夫	朝日医療専門学校広島校	平成30年4月1日 ～平成31年3月31日(1年)	校長
外山 日登志	朝日医療専門学校広島校	平成30年4月1日 ～平成31年3月31日(1年)	教務部次長
柿原 和之	朝日医療専門学校広島校	平成30年4月1日 ～平成31年3月31日(1年)	事務部課長

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

前年度の学校評価結果の報告と、当該年度の学校及び各学科の運営方針、教育活動、学生動向等について意見交換を行い、企業等学校関係者と連携及び協力の推進を図る。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	教育理念、目標、育成人材像
(2) 各学科等の教育	カリキュラム、国家試験合格率、授業評価
(3) 教職員	各種研修参加、自己点検・自己評価委員会、教務委員会、学生委員会
(4) キャリア教育・実践的職業教育	単位互換制度、聴講生制度、各種ゼミ、同窓会主催研修会
(5) 様々な教育活動・教育環境	二部制、図書室、自習室、補習授業
(6) 学生の生活支援	クラス担任制
(7) 学生納付金・修学支援	奨学金、学費減免制度

(8)学校の財務	定員充足率、予算・収支計画、会計監査
(9)学校評価	自己点検・自己評価報告書、学校関係者評価報告書
(10)国際連携の状況	
(11)その他	
※(10)及び(11)については任意記載。	
(3)情報提供方法	
ホームページ	

授業科目等の概要

(医療専門課程鍼灸学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			人文科学Ⅰ	医療史、古典	1前	20	1	○			○			○	
○			人文科学Ⅱ	現代国語	1前	40	2	○			○			○	
○			社会科学	経済学	1後	40	2	○			○			○	
○			自然科学Ⅰ	生物学	1前	40	2	○			○		○		
○			自然科学Ⅱ	スポーツ健康科学	1後	20	1	○			○		○		
○			自然科学Ⅲ	運動メカニズム	2通	80	4	○			○			○	
○			自然科学Ⅳ	運動機能学	3後	40	2	○			○		○		
○			解剖学Ⅰ	筋骨格系	1通	80	4	○			○		○		
○			解剖学Ⅱ	脈管系、内臓系、神経系	1通	100	5	○			○		○		
○			解剖学演習	運動器系、脈管系、神経系、内臓系	3前	40	2	○			○		○		
○			生理学Ⅰ	血液、循環、呼吸、消化吸収、泌尿、代謝 内分泌	1後	80	4	○			○		○		
○			生理学Ⅱ	神経、自律神経、筋運動	2前	80	4	○			○		○		
○			生理学演習	血液、循環、呼吸、消化吸収、泌尿、代謝 内分泌、神経、自律神経、筋運動	3前	40	2	○			○		○		
○			病理学概論	内因・外因、循環障害、退行性病変、進行性病変、 炎症、腫瘍、免疫異常、アレルギー、先天性異常	2前	60	3	○			○		○		
○			衛生学・公衆衛生学	健康、ライフスタイル、環境、産業保健、精神保健、 母子保健、成人・高齢者保健、感染、消毒、疫学、保健統計	3前	60	3	○			○		○		
○			臨床医学総論	全身・局所の診察、一般・生理学的検査、診察法、 治療学	2通	60	3	○			○		○		
○			臨床医学各論Ⅰ	関節疾患、筋腱疾患、脊椎疾患、外傷、内分泌疾患、 代謝異常	2後	40	2	○			○		○		
○			臨床医学各論Ⅱ	感染症、消化器系疾患、呼吸器系疾患、泌尿・生殖 器系疾患	2後	40	2	○			○		○		
○			臨床医学各論Ⅲ	心疾患、血液疾患、脳血管障害、脳機能異常、末梢 神経疾患、膠原病、小児疾患、麻酔科、婦人科疾患、 皮膚疾患、眼疾患、耳鼻疾患、精神疾患	3前	60	3	○			○		○		
○			リハビリテーション医学	運動力学、身体機能、歩行、リハビリテーションの理念、 心身機能・身体構造、社会的活動、運動麻痺、理学療法、 作業療法、脳卒中、脊損、切断、小児、関節疾患、末梢神 経障害、呼吸器疾患、心疾患、パーキンソン病	2通	60	3	○			○			○	
○			医療概論	現代医療の課題と制度、医療倫理、医療の歴史三大 伝統医学	1前	20	1	○			○		○		
○			関係法規	免許と試験、業務、罰則、関係法規	3前	20	1	○			○		○		
○			東洋医学概論 (基礎)	東洋医学の概念、陰陽学説、五行学説、気血精津 液、神、蔵象論、相互関係	1通	60	3	○			○		○		
○			経絡経穴概論	常位法、正経十二経、奇経八脈、奇穴・新穴、要穴	1通	100	5	○			○		○		
○			鍼灸理論	感覚の受容・伝導、鍼灸刺激と反射、鍼鎮痛、鍼灸 刺激の影響(自律神経・内分泌・免疫)、関連学説	2後	40	2	○			○		○		
○			東洋医学概論 (臨床)	四診、弁証論治	2前	60	3	○			○		○		
○			鍼灸診察概論	医療面接、身体診察、神経系検査、運動機能検査	2前	40	2	○			○		○		
○			鍼灸臨床論Ⅰ	頭部疾患、消化器系疾患	2後	40	2	○			○		○		
○			鍼灸臨床論Ⅱ	頸肩腕痛、腰下肢痛、運動麻痺、スポーツ障害、老 年医学、代謝異常、不眠・疲労、小児	3前	40	2	○			○		○		
○			東洋医学臨床論	各症候に対する弁証論治	3通	60	3	○			○		○		
○			社会鍼灸学	鍼灸師を取り巻く環境、地域での業務、高齢化社会 に対する役割、少子化に対する役割、女性の健康管理 への役割、ストレス社会に対する役割、スポーツ 業界での役割、施術所の運営	3後	40	2	○			○		○		○

○		鍼灸入門実習	刺鍼の方式・術式、特殊鍼法、臨床応用、リスク管理、衛生操作、灸術の定義、艾炷の形成、線香と着火、艾の燃焼、適応症、過誤、副作用刺鍼練習、点火練習	1前	40	1			○	○	○		
○		鍼灸基礎実習	自己施術、対人施術	1通	40	1			○	○	○		
○		鍼基礎実習	対人施術、取穴法、特殊鍼法	1前	80	2			○	○	○		
○		灸基礎実習	対人施術、取穴法、隔物灸、温灸	1通	40	1			○	○	○		
○		体表診察実習	触知（頭頸部、体幹、上肢、下肢）	2後	40	1			○	○	○		
○		鍼灸診察実習	医療面接、血圧測定、関節可動域測定、脳神経検査、整形外科的徒手検査、感覚検査	2前	40	1			○	○	○		
○		現代鍼灸実習	症候・疾患に対する現代医学的鍼灸施術	2後	40	1			○	○	○		
○		東洋医学実習	四診、弁証、治法	2後	80	2			○	○	○		
○		鍼灸応用実習Ⅰ	症候・疾患への弁証論治	3前	80	2			○	○	○		
○		鍼灸応用実習Ⅱ	現代医学的病態把握と鍼灸施術	3後	40	1			○	○	○		
○		鍼灸応用実習Ⅲ	東洋医学・現代医学を踏まえた病態把握と施術	3後	40	1			○	○	○		
○		鍼灸応用実習Ⅳ	伝統医学を用いた鍼灸施術	3通	40	1			○	○	○		
○		鍼灸臨床実習	臨床現場実習	3通	45	1			○	○	○		
○		鍼灸総合演習Ⅰ	鍼灸学の基礎医学的理解	3前	40	2		○		○	○		
○		鍼灸総合演習Ⅱ	鍼灸学の総合的理解	3後	60	3		○		○	○		
○		鍼灸総合演習Ⅲ	医療の総合的理解	3後	100	5		○		○	○		
合計				47科目	2445単位時間(106 単位)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
(卒業要件) 全単位取得	(履修方法) 全科目必修	1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	20週